



しらかし

目指す生徒像

尚学・共生・雄健

- ・自主・自学の向上心をもって学ぶ生徒
- ・温かい心で、よりよい人間関係を築く生徒
- ・めあてをもって心身を鍛える生徒

令和4年度 第16号

3月24日 発行

文責：米川

電話：022-356-8055

E-mail：shirakashi-jh@rifu.ed.jp

☆ 1年間ありがとうございました。

令和4年度も無事に終えることができました。今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の時期が長く、教育活動の制限を設けながらの1年間でした。そんな中ではありましたが、生徒たちは前向きに取り組みました。保護者の皆様におかれましても、マスク着用をはじめ、感染予防のための早め早めの判断や対応を講じていただきました。職員一同、心から感謝申し上げます。次年度につきましては、昨年度までのコロナ禍での対応とは少しずつ変わってくると思います。引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。

☆ 第31回卒業式

3月8日（水）に第31回卒業式を挙行了しました。今年も、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、在校生、来賓の参加自粛等の制限を設けた中での式でした。卒業式を終えて尾形校長は、「3年生の力強い合唱は非常に感動しました。さらに、式に全員参加することができたことは、心から喜ばしいことでした。」と話していました。新型コロナウイルス感染症の感染が日本中で未だに収まらない中で無事に開催することができたのは、しらかし台中学校保護者の皆様をはじめとするたくさんの関係者の皆様が、日頃から感染拡大防止のための取組をしっかりと行ってくくださったおかげです。心より御礼を申し上げます。

式辞（一部抜粋）

校長

みなさんの中学校生活は、コロナに制限された3年間でした。入学式は予定どおりに行われたものの、普通であれば様々な歓迎の学校行事があり、部活動を見学したり、難しくなる授業に臨んだり、希望に満ちた中学校生活をスタートする予定でした。しかし、コロナ禍のため、次の日から臨時休業となりました。5月中旬から分散登校が始まり午前あるいは午後のみ、しかも1クラス単位の登校となりました。やっと全員そろって登校できるようになったのは、6月1日。1学期の始業式を行い、約2ヶ月遅れで1学期がスタートしました。生徒のみなさんも不安で不安で仕方がなかったと思います。それは教職員も同じでした。食事以外はマスクを着ける、食事は黙って前を向いて食べる、歌は歌えない、楽器は吹けない、本当にできないことばかりでした。机や階段の手すりの消毒、部活動で使ったボールの消毒もしなければなりません。そのような中、どのような工夫をすれば活動ができるのか、教職員、特にみなさんの学年の先生方は三年間悩み続けました。

みなさんが三年生になり「しらかし」の中心となった今年度は、県内の感染者が500人程度で過去最高という大変な状況でスタートしました。そのような中5月にはしらかしの伝統行事である体育祭。感染症対策を徹底し、みなさんが後輩達を上手にリードし、仲間達とぶつかり合いながら成長し、素晴らしい体育祭を作り上げました。団長3人がマスク越しに大きな声で各カラーをまとめ応援している姿に、初めて中学校の運動会を見る私はとても感動しました。また、みなさんのことをとても素晴らしい人達だと関心させられたのは、修学旅行です。夏休み前には県内感染者が2500人であったのが、8月中旬には4500人を超えました。行くべきかどうか、とても悩みました。しかし、1年生のときからコロナに制限されたみなさんに、少しでも通常に近い活動をして欲しいと、業者とも何度も打合せをし、対策を徹底することで実施しました。旅行中、みなさんのマスク越しの笑顔は我々をとても勇気づけてくれました。そして、旅行先での5分前行動を確実にする姿、友人だけでなく他の通行者にも心遣いができる姿、とにかくすべてについて関心することばかりでした。そして、本校30周年記念式典と同時に開催した合唱コンクール。テーマどおり30周年の調和を響かせた合唱で、さすがは3年生、3クラス共、聴衆を圧倒しました。

コロナに制限された3年間でしたが、本当にみなさんは確実に大きくたくましく成長しました。ここで、成長したみなさんに、これからのさらなる成長を期待して、松下幸之助さんの言葉、「素直に生きる」ということを送ります。逆境や厳しい状況は尊いと言います。その理由は、人間は逆境にもまれながらも不屈の精神で克服することで強くなっていくからだそうです。みなさんも厳しい状況に対して「負けないぞ」と頑張ることで困難を克服し、成長を感じたことがあると思います。しかし、厳しい状況だけが人を強くするものではなく、順境、つまり順調に事がすすんでいるときも人は強くなると言っています。成功体験を重ねることで、自己肯定感を得ることができることもみなさんは身をもって分かっていることだと思います。そこで松下さんは、大事なことは「素直に生きる」ことだと言います。厳しい環境にいじけたり、どうせ自分なんて無理と卑屈になったりする。順調な状況であれば自分を過大評価し、うぬぼれる。そのようなことでは、人として正しく成長できない。素直であれば、厳しい状況でも順調な状況でも、等身大で自分を見つめることができ、人は強く正しく聡明になると、話しています。ぜひ、強く、正しく、聡明になるためにも、今まで以上に、素直に生きて欲しいです。そして、これからの人生、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのようにして社会貢献していくのか、をしっかりと自分の頭で考え、自分の未知なる可能性を発揮して、これからの時代を担うことを強く期待します。

☆ 第31回卒業式 答辞 卒業生代表 (一部抜粋)

全力を注いだ部活動。練習の中で仲間と衝突する日も、試合に負けて悔しくて涙する日もありました。けれど、それを分かち合える仲間がいてくれたから、乗り越えることができました。試合に勝って喜び、笑い合える、そんな仲間と出会い、三年間部活動を続けられたことを誇りに思います。体育祭では、コロナ禍で多くのことが制限されました。競技や応援合戦の練習が通常より短かった中で、私たちはどうすれば最高の体育祭を創り上げることができるのか、考えながら練習に励みました。本番が近づくにつれて、クラスの中で意見がぶつかり合いました。しかし最高の体育祭とは、「勝ち負けにとらわれず、一生懸命努力する姿で、感動し感動させること」だと気付いたことで、クラスの団結力がさらに高まりました。体育祭が終わってみるとマスクの下からあふれ出る輝かしい笑顔が見られました。コロナ禍でも私たちにしかできない、新しい伝統を創り上げることができたと、自信をもって言えます。修学旅行では、日程の変更もあり東京に行けるか不安もありましたが、いろいろな方の努力のおかげで、無事に行くことができました。その中で楽しい思い出がたくさんできたのと同時に、私たちは多くのことを学ぶことが出来ました。クラス全体の団結力が高まったのはもちろんのこと、自分たちだけで臨機応変に行動する力や、周りを気遣って行動する力など、普段の生活では得られないものを多く得ることが出来ました。あの三日間は、私たちにとって本当にかげがえのない思い出です。そして、合唱コンクール。創立三十周年記念で、電力ホールというすばらしい会場で合唱を発表できるということで、さらに背筋が伸びる思いがしました。各クラスが最優秀賞を目指して、日々練習を積み重ねました。その中で仲間との結束力が日々高まっていくのを感じました。当日は、不安はもちろんありましたが、今まで培ってきたものを生かし、最高の歌を歌い上げることができました。順位は付きましたが、結果以上に学ぶことが多く、とても成長することができたと思います。

一年生、二年生のみなさん。今まで私たちを支えてくれて、付いて来てくれて本当にありがとう。在校生全員がいない卒業式はとても寂しく感じます。しかし、この日のために、会場の準備をしてくださいました。校門をくぐってからこの席に着くまで、姿はなくても皆さんの頑張りが思いが確かに伝わってきました。これから先、他の誰かが皆さんの道を代わりには歩んではくれません。皆さん自身の力で、皆さん自身の道を強く歩んでください。今日の私たちの姿が、これから成長する在校生の皆さんの心に残ることを信じています。

十五年間、大切に育ててくれたお父さん、お母さん。何度も何度もぶつかり合っただけでなく、どんな時も私たちを励まし、寄り添い、不安を和らげてくれるその温かさが本当に嬉しくて、何度も心の中で「ありがとう」と言いました。普段は照れくさくて言えないけれど、本当にいつも感謝しています。これから私たちは自分の決めた道へと進んでいきます。まだまだ迷惑をかけますが、温かく見守っててください。

三年生のみなさん、いよいよ私たちはこのしらかし台中学校を卒業します。そばにいたことが当たり前だと思っていた最高の仲間と、思い出のページと一緒に作っていけないと思うと、とても寂しいです。かけがえのない時間を共に過ごしてきた私たちは、今日を境に別々の道を一步一步、自分の足で歩いていきます。これから始まる新しい世界に不安と希望が入り混じっています。時には、大きな壁にぶつかることもあると思います。しかし、私たちはやる時は本気になれる学年です。このしらかし台中学校で得た多くの思い出と学び、誇りを人生の糧に、未来に向かって力強く羽ばたいていきましょう。私たちはそれぞれの場所へ旅立っても変わらず、ずっと仲間です。今まで本当にありがとう。

今まで私たちを時には厳しく、優しくご指導くださいました先生方、本当にお世話になりました。今日までかけていただいた数々の言葉は、私たちの心の支えとなりました。岩間先生、曳地先生、石川先生、尚先生、米本先生これまで私たちの担当として共に過ごした時間はかけがえのないものとなりました。そして庄司先生、三年間私たちの学年主任として、私たちに多くのことを教えてくださいました。体育祭では少し厳しいご指導もありましたが、そのおかげで私たちは「より良いものを作ろう」という気持ちが高まりました。合唱コンクールでは何とかして庄司先生を泣かせてやろうと意気込み臨みましたが、そう簡単にはいきませんでした。ですが、審査員の方が三年生を褒めて下さった時に、庄司先生が小さくガッツポーズをしていたことは、今でも鮮明に覚えています。本当に嬉しかったです。今の私たちがあるのは、先生方があってものだと思います。本当に感謝しています。ありがとうございました。



☆ 生徒たちの活躍

第47回角田クロスカントリー大会 中学男子3km チーム戦

第1位 2年生 1年生
2年生 2年生

第50回田尻クロスカントリー大会 3000m 中学男子

第2位 1年生 第3位 2年生
第7位 2年生

第70回宮城県亘理クロスカントリー大会 中学男子3km

第7位 1年生

令和4年度宮城郡中体連 功績賞

2年生 (宮城県駅伝大会第4区第1位)

ベストリーダー賞

1年生 (272冊)	1年生 (243冊)	1年生 (202冊)
1年生 (126冊)	1年生 (120冊)	3年生 (118冊)
1年生 (115冊)	1年生 (96冊)	1年生 (88冊)
2年生 (81冊)		